

# サーサナ

第36号 仏暦2559（西暦2016）年8月28日

---

## 信じる者は救われるのか（2）

釈尊は、ある説が真実であるかどうかを判断するのに、次の10の項目に依拠してはならないと諭しています。その10とは、伝聞・伝承・憶測・聖典・推論・常識・類比・予見・表面的可能性・師匠の説、です。これはきびしいです。世間がみな言っていることだから正しいとはいえない、というのは納得できます。しかし、尊敬する師匠のことばも、聖典に書いてあることも、無条件に正しいと信じてはいけない、というのですから。むしろ、宗教というのは教祖（宗祖）や聖典を全面的に信じることだと、一般には思われていますから、釈尊にそれを否定されると、いったい何を頼ったらいいのか、不安になってしまいます。

釈尊はただ、「苦の解決に役立つ教えこそが真実である」と言われます。とても実践的です。それも自分ひとりの経験ではなく、万人に通用する実践的教えでなくてはなりません。そして盲信・盲従を避け、批判的な精神を持ち続けることが大切です。

一切の権威や固定観念に頼らないことは、しかしながらそれほど易しいことではありません。私たちはつい何かを無批判に受け入れ、知らず知らずのうちに本当だと思い込んでいることがあるのではないのでしょうか。それは宗教だけでなく、政治や学問の分野でも同じことが言えるでしょう。

原点を忘れないようにせねばなりません。私たちは仏教徒として何を願うのか？その目的は生きる上での苦を解決し、自分だけでなくすべての人々の幸福のための道筋を見出すことではないのでしょうか。そしてその道筋は誰もが納得いくものでなければなりません。つまり万人と共有できるものでなくてはならず、特定の人だけに通用する方法、格別の熱心さが要求されるような方法であっては、ほんとうの救いは得られず、ただ「救われたような感じがする」だけで終るのではないのでしょうか。

なお、真宗でいう「信心」とは「信仰」ではありません。何かを信じる、ということではなく、目覚め・気付きのことです。（本紙17号参照）

## 法要行事のご案内

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。肩衣とは浄土真宗の仏事における正装で、本山また当寺でも授与することができます。

### 九月 秋彼岸会

彼岸とは、覚りの世界＝涅槃のことです。これに対して、私たちが暮らす現実世界を此岸といい、此岸から彼岸に渡るのが「波羅蜜（はらみつ）」です。

- ❖ 日 時 9月20日（火）午後2時～4時
- ❖ 内 容 勤行（観無量寿経訓読、正信偈）、法話
- ❖ 持ち物 勤行本『真宗法要聖典』、念珠
- ❖ 法 話 当寺住職
- ❖ 記念施本 四衢亮『歎異抄の世界をたずねて』（東本願寺）



彼岸花（ヒガンバナ）。サンスクリット語では mañjūśaka（マンジュージャカ）といい、天界に咲く花という意味。おめでたい事が起こる兆しに赤い花が天から降ってくる、という仏教の経典に由来します。マンジュージャカは現実の花ではないので、本来はヒガンバナとは違うのですが、ヒガンバナが突然一斉に咲き始めるため、天界から降ってきたように思われたのでしょうか。漢字で曼珠沙華と書き、ヒガンバナと同一視されるようになりました。

### 十月 報恩講（ほうおんこう）

報恩講とは、浄土真宗の宗祖・親鸞聖人（1173-1262）の御命日にあたり、宗祖への報恩謝徳をあらわす法要です。浄土真宗では最も重要な法要で、「お仏事」といえば報恩講のことをいいます。

- ❖ 日 時 10月29日（土）午前10時～午後3時
- ❖ 内 容 午前：勤行（正信偈真四句目下・念仏讃洵五）および法話  
おとぎ（昼食）  
午後：勤行（文類偈真四句目下・念仏讃洵五）および法話

- ❖持ち物 勤行本『報恩講勤行テキスト』、念珠
- ❖法 話 前田和丸師（一心寺住職）
- ❖記念施本 『みちしるべ名講話選（智慧）』（仏教伝道協会）、  
法語カレンダーほか

## 十一月 参拝ツアー

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌特別記念事業として、約12年の歳月をかけて行われてきた本山御影堂・阿弥陀堂・御影堂門の御修復が、2015年12月末に完了しました。本年11月20日から21日には、御正忌報恩講に合わせて「真宗本廟両堂等御修復完了奉告法要」が厳修されます。

当寺では21日午前の音楽法要に団体参拝いたしますので参加者を募ります。昼食は、昨年と同様「菊乃井本店」にて。その後、豊臣秀吉の正室・北政所ゆかりの高台寺を拝観します。

- ❖日 程 11月21日（月）日帰り
- ❖交 通 全行程をジャンボタクシーで移動します
- ❖行 程 7:30 教心寺出発  
9:30 本山参拝（法要・ギャラリー見学）→ 12:30 昼食  
→14:30 高台寺拝観 → 19:00 教心寺帰着
- ❖費 用 17,000円（当日お支払い下さい）
- ❖申込み 電話・メール・FAXなどによりお申し込み下さい。  
先着8名までとさせていただきます。

## 帰敬式受式おめでとうございます

6月28日、下記の五名が、当寺第七回帰敬式を受式され、法名授与されました。今後とも、仏法聴聞・仏道精進されますことを願いたします。

釋光闡 釋尼香美 釋尼智信 釋尼涌泉 釋興仁

## 清掃・おみがき奉仕

皆様方のご奉仕をお願いしております。終了後はお茶とお菓子でおくつろぎ下さい。雨天の場合は中止とします。

- ❖9月12日（月） 午前8時から約1時間 境内の草取り（雨天中止）
- ❖10月12日（水） 午前9時から約2時間 仏具のおみがき

---

## 東本願寺リーフレットより 亡き人を縁として

---

「五代前の先祖がたたっていますよ」と言われると、ドキッとする人は多いかもしれません。しかし、「亡くなったお母さんがたたっていますよ」と言われればどうでしょう。ほとんどの人は、「私のお母さんはそんな人ではありません」と怒り出すのではないのでしょうか。つまり、先祖が迷っているとか、祟っているというのは、亡くなった人のことをはっきりと受け止められていない私たちの心のすき間につけ込んでくるものなのです。そして、ほとんどの場合、それにはお金がかかっています。

亡くなった人は、すでに喜怒哀楽はありません。ですから、お内仏（仏壇）に何々を供えろと言うことはありません。また言うことをきかないと化けて出るぞということも言いません。にもかかわらず、生きている私たちの方が、亡くなった人をどうにかしないといけないと勝手に思いはかかっているのです。

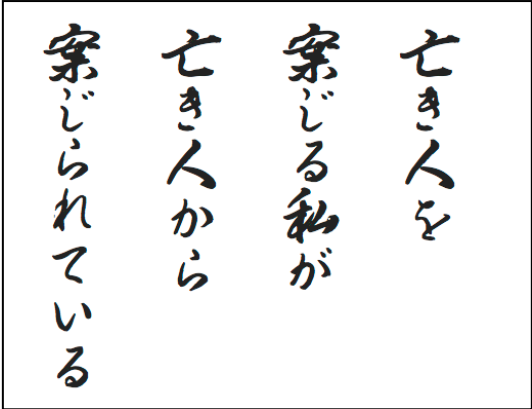
それは、一見すると亡くなった人を大切にしているようですが、実は自分の人生を守ってもらいたいという気持ちや、災いが自分におよぶことを恐れる気持ちからきていることが多いのではないのでしょうか。お祓（はら）いなどが流行るのもこのためです。

亡くなった人は、自らの身をもって、人は必ず命を終えていかねばならないということを教えてくれています。

限りある人生をどのように生きるのかと呼びかけているのです。近しい人の死は、特にこのことを感じさせられます。亡き人と向き合うことにより、私たちは初めて自分の人生についてよく考えることができます。

お墓参りに出かけるのも、法事を勤めるのも、それは亡くなった人の生き方に思いをさせ、自分の生き方を見つめ直す大切な機会なのです。

一楽 真 大谷大学教授



案じられる  
亡き人から  
案じる私を

---

真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弍（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 F A X：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>

---